

2020年2月26日
日本船主協会 企画部広報室

海運の重要性を学校教育の場で
～尾道市内の小学校で出前授業を実施～

当協会は、学校教育において、わが国の暮らしと産業を支える海運をはじめとする海事産業を取り上げていただくよう、会員会社や関係団体と連携して教育関係者に対し、商船や海事施設等の見学会や授業への協力、資料提供等を実施しております。

今般、2月21日（金）に広島県尾道市内の小学校にて海運および造船に関する出前授業を実施しました。同授業は、造船業をはじめ海事機能が集積する尾道市において、地元産業を学ぶ中で、船が建造される過程やその船の役割についてより深く学ぶことを目的としたものです。

同授業では造船所で建造される船種を紹介し、その大きさを身近な建物や乗り物を用いてイメージしやすく説明するとともに、同校児童が授業で地元の人たちの協力を得ながら作った手作りの筏（いかだ）をこいで近くの島に渡る体験活動をしていたことから、その制作体験と建造の工程や工期などを比較するなど、造船所では様々な船が生まれ、関連産業を含め多くの人々が働いていることを知ってもらいました。その後、造船所にて建造された船が私たちの日常生活にどのように関わってくるのか、なぜ飛行機（国際輸送）やトラック（国内輸送）ではなく、船で運ぶことが好ましいかなどを説明しました。

同授業を通じて児童に、私たちの生活に必要なものの原材料は外国からほとんどが船で運ばれていること、国内輸送でも船が活躍していることなど、船がないと生活は成り立たないことを学んでもらうとともに、その船を建造する地元造船業の魅力を再認識してもらいました。

当協会では、今後とも皆様の日々の生活を支える海運を広く知っていただくための活動を実施してまいります。



貿易量に関する質問に手を挙げて答える児童たち